

## 生き生きと学習する児童の育成 ～コミュニケーション能力の向上をめざして～

### I 研究の内容

#### 1 研究の目的

今年度より3年間、文部科学省、山梨市教育委員会より教育課程特例校の指定を受けた。そこで、これまでの実践をもとにして、教科としての英語科の研究を進め、コミュニケーション能力の向上をめざすこととした。

#### 2 研究の具体的内容と方法

- (1) 英語科の学習を通して、自己表現力を養う。そのために、ALTに自分の考えや気持ちを話せるように支援していく。
- (2) 指導方法と評価等を工夫し、本校独自の英語科指導計画を作り、授業実践を行い、評価し改善していく。
- (3) 先進校の事例に学んだり、授業公開をして指導を仰いだりして実践を重ね、授業力を高める。
- (4) イングリッシュルームを作ったり、教材をそろえたりして、英語科の学習環境を整える。

### II 成果と課題

#### 1 成果

- (1) ALTとの名札の受け渡しの時に、ALTの目を見て‘Thank you’を言うように指導したり、意欲的に会話をするよう動機付けを工夫したり、英語科にみられた子どものよさをほめることに努めたり、英語が上手く話せないで困っているときに援助したりしてきた。それらのことにより、児童は、英語科の授業中にALTやJTE、友だち、HRTと積極的に話しかけたり、分からないことを聞くなど、コミュニケーション能力にたかまりがみられるようになってきた。
- (2) 1時間の授業のながれをウォーミングアップタイム、レッスンタイム、サンキューグッバイタイムとし評価を位置づけ、全職員で協力し合い35時間(1学年は34時間)の年間計画を立てることができた。「聞く」と「話す」の領域の他、発達段階に即して「読む」と「書く」の領域について指導を位置づけ。言語にふれる体験を多くすることができた。毎時間ごと、児童にめあて(学習目標)を提示することにより、学習のねらいを明確にし、めあてについて振り返る(自己評価)場を設けた。そのことにより、児童に英語科における自己の学びの様子を捉えさせることができた。学習目標(評価基準)についての評価を1時間のながれの中に位置づけたことにより、評価基準に照らして児童の学びの様子を捉え、次時の学習の指導に生かすことができた。
- (3) 山梨大学の田中武夫先生を招き、英語を使ったコミュニケーション能力の育成が重要であることを指導していただき、研究の方向性を定めることができた。校内研究で、評価・評定や学習内容等について研究・討議を行って行く中で、他教科と同じように、まず第一に子どもの学習意欲を高めていくことを核に据えて研究的実践を行って行く事が重要であることが確認された。12月の研究授業及び研究協議に、峡東教育事務所の小林俊彦指導主事を招聘し、先進校の実践の様子を伝えていただいたり、本校の評価基準及び評価の場面、評価のあり方、「書く」等について御示

唆をもらったり研究実践に取り入れた。

- (4) イングリッシュルームや廊下等の英語表記の掲示物の充実を図った。児童は掲示物を見たり触ったりと英語の文字に触れる様子がみられた。また、給食中、報道委員会が英語の歌を流している。英語の歌を自然と口ずさむ姿が児童に見られるようになってきた。児童の英語への興味や関心が高まってきたように思われる。

## 2 課題

2年目には以下の計画を実施し評価、改善していく。

- (1) 前年度作成した35時間の授業に「聞く」、「話す」、「読む」、「書く」の目標とふりかえりの観点、ゲーム的活動を付加し、実践により検証していく。
- (2) 他校の評価・評定について学習し、教科という観点から評価・評定について検討していく。ふりかえりは、具体化したことについて、実践による検証をしていく。
- (3) 臆することなく会話をするようにさせるために、会話をしようという気持が高まると予測されるゲーム的活動を実践により選定し、会話をしようという気持が高まるゲーム的活動を授業に取り入れていく
- (4) 日常的に英語に触れる機会を増やすために校舎内の掲示物を工夫し、段階的な英語の定着を目指す。

## III 成果物

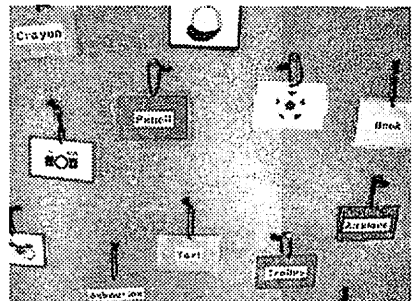
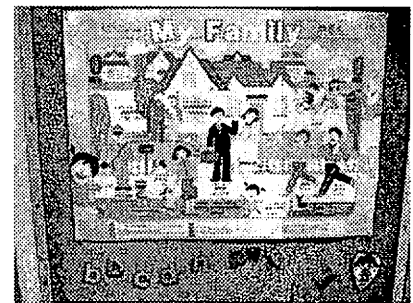
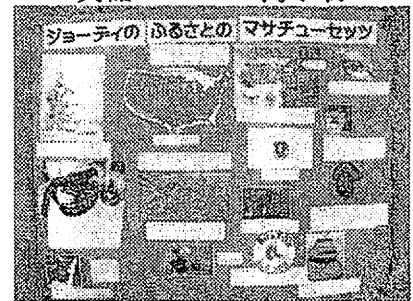
### 1 1時間の授業のながれ

4年 単元名 「自己紹介をしよう」 第1時 ※  
 学習目標 「コミュニケーションを圆ろうとする。」 ※  
 ◎自己紹介ができるようにする。 ※  
 ◎外国の文化に関心をもち、進んで受け入れようとする。 ※

	学習活動	HRT	ALT・JTE	教材・教具
ワ	1 あいさつをする。	あいさつをする。	あいさつをする。	
イ	2 ALTから呼名されながら名札をもらう。	ALTの目を見ながら、Thank youを言うように指導する。	ALTは、呼名しながら名札を渡す。	
エ	3 学習目標をつかむ。	あいさつすることのめあて		
ウ	My name is～、I like～、How about you? Thank you. を言えるようにする。	よさや大切さを話し合わせ、学習目標を提示する。		
ム	4 What's your name? を歌う。	子どもと一緒に歌う。	CDを流し、子どもと一緒に歌う。	Gennkit
メ	5 ゲームにより会話をする。友だちや先生方と自己紹介をしながら、My name is～、I like～、How about you? Thank you. を言えるようにする。	HRT・ALT・JTEのデモンストラーションにより、子どもにゲームの仕方を伝える。子どもと一緒にゲームをする。ゲームの仕方や会話が分からない子には教える。評価基準(本時の目標)に沿って2、3人の児童を評価する。	ALTの発音を聞く機会を増やす。難しく発音が異なった場合(子ども)には、正しい発音を教える。	黒物の絵カードなど(無大附小) ※名前と好きなものをかきカード、活動集P72
モ	6 上記の会話を学年の計画に従い、読んだり、書いたりする。 ※子どもの学習意欲を高める方法で、「読む」「書く」の領域についての学習。	うまく読めなかったり、書けなかったりした子どもには読み方や書き方を教える。		
ム	7 本時のめあてについてふりかえりをする。	カード(自己評価)等から、児童の評価を行う。		
ヤ	8 名札を返す。 Thank you	ALTの目を見ながらThank youを言うように指導する。	ALTは、呼名しながら名札を受け取る。	
ユ	9 あいさつをする。	あいさつをする。	あいさつをする。	

### 2 学習環境

#### 英語ルームの掲示物



(研究主任 小野 紀男)